



サンシヨは小粒でもピリリと辛い 精密保持工具一筋

広海 新兵衛*

大阪は福島区大開^{オキビラキ}2丁目、阪神電鉄野田駅からほど近い所、かなりの数の中小企業が立地している中にあり、昔から西野田職工養成所として、つとに現大阪府立西野田工業高校の西南隣りである。『しようわ』といわれればまず昭和と思ひ『聖和』と書けば普通『せいわ』と読む人が多い。聖は聖徳太子の聖であり、ひじりであり、きよしとも読まれるが、きよく、和をもって発展したい、そのために誠をもって努力する精神からにはほかならない。社是も誠意をもって努力するが所以である。壹万圓札に聖徳太子が印刷されており金に縁あらば幸甚ながら努力が足りずに苦勞をしている次第であります。

昭和5年に先代亡父の広海光次が鉄板の冷間打抜きによるナットの製造を主として広海工業所を設立したのが創始である。途中一旦閉鎖はしたが、その間種々の試行錯誤をくり返し、戦時中は航空機関係のゲージ物を手がけ同時に各工場へ出入してアイデアと技術を提供、とくに他人の出来ないものなら手がけて物にする一風かわった変人だった。昭和20年に戦災にあい一旦福岡へ帰郷したが、そののち再度上阪し戦後の荒廃の中を縁ありて、東洋製缶株式会社に専属的に専用機の修理を始め、金型および関連の活工具類の製作を開始した。東洋製缶の仕事に関してはラインを止めず応急修理でひとまずカバーし、徹夜で本格補修を完成させて事なきを得たと言うような非常に器用な小まわりのきく人だった。

とくに重量機械の据付けは3人、また5人、と仕事の内容できめ進めるのであるが、3人なり5人なり全員の息を合わすむつかしさがああり、指示と違うた動作を一人がしたために、ゆび一

本なくした父を私は体験している。事故当時父はそつと私の耳もとで『指をはさまれふきのこしの血がついている』誰にもさとられないよう後片付けをしておいてくれ、それと会社の大切な設備を汚して申し訳けない、よく清めておくよう、相すまぬことをしたとって治療に行ったが、翌日まで仕事仲間は誰一人しらなかったのである。東洋製缶より身をひくまで無事故であったことが父の心をいやし慰めただろう。唯一の返しであったと思う。このように仕事にかける情熱と道徳を重んずる父、尊敬する父のお蔭で今日の存在あるを感謝している次第です。

昭和29年株式組織に改め現在地で先代の最も得意とする精密保持工具を手がけ、現在に到るもその大方針を貫いているのである。工場敷地500坪の地へ、事務所倉庫も含めて320坪余の建物でサンシヨは小粒と表現したのはこのためである。ピリリと辛いのは、その中味にあり旋削りフライス削りなどの前加工を行う第一工場と、研削のみを行う第二工場と、ATCマシニング、NCタレット旋盤、倣い旋盤、他28台が第一工場に、第二工場には平研、円筒、内面、等各一流メーカーの研削盤が、20数台ありそしてごく一部を除いてほとんどの工作機械が稼動しており作業は一人で2台は必ず受けもつよう1マン2マシンを実行している。

一方省力化と治工具改善等も、たゆまず努力して好効果を上げています。以上はハードの方であるがソフト方はといえは現在までに取得した特許関係で、特許、実用新案、意匠登録も含めて日本では30数件であり、米国特許も3件取得しています。従業員数は50名足らずの規模でおはすかしいけれど並み以上の努力をしています。最も新しいものは、昭和50年7月に許可がおりたハードチャック関係のものであるが、も

* 広海新兵衛 (Shinbei HIROUMI)、聖和機械工業株式会社、代表取締役

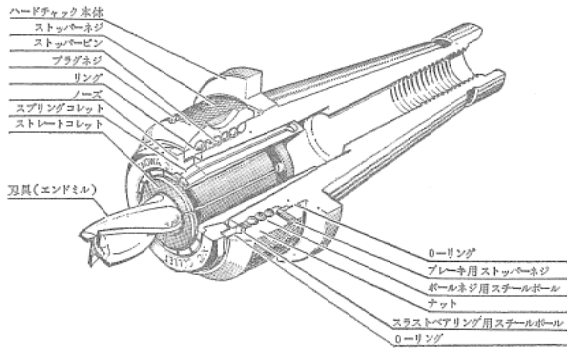


図 1

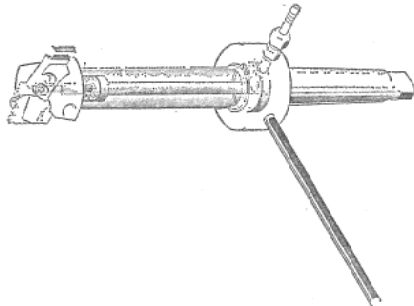


図 2

もちろん日本特許も昭和52年10月に4件取得いたしました。また昭和53年初めには切刃微調節式の大径ドリル、通称スーパードリル（アジャスタブルタイプ）も取得し新製品として発売中のものであります。

このピリリと辛いところ、特にソフト面に自社独特の工夫をあちこちに凝らしているのは、まさしく先代社長の遺体をつぐものであり先代が手塩にかけて養成した優秀なスタッフの努力のしからしめるところであろう。

ところで、私こと広海新兵衛は名前からして誰しも豪傑を想像なされると思われませんが、名前に似ず小柄な童顔のいたらぬものであります。が縁ありし諸氏の御教導とスタッフの協力によってかなりひどい昨今の産業界の嵐のなかで大波にもまれ潮水を頭からかぶりながらも徐徐にでも業績をあげつつ将来に曙光を見出さんと鋭意努力中で、恵まれた境遇に責任を感じているものであります。

高年齢者層のあり方

其の1.

昨今の業界低調のあおりでかなりの会社の希望退職者高年齢者対照が募られている。企業の不

運もさることながら働いていた従業員も、この上ない迷惑である。人生には運と、不運が、背なかあわせでつきまわっている。いくら努力をしてもいっこうにむくわれぬ人も、この世では数多いもので、まして努力せずして幸運などある筈がない。われわれ零細企業ではいくら人材がほしくて求人しても見むいてくれないのが実情で、そのため10年は成長おくれしたであろう、高年齢者層顧用に踏み切ったのも以上の理由にほかならぬ第一番に入社した方は60歳であった職業安定所よりの紹介だったので助成金まで下された。年齢だけ体力は低下しているものの、考え方などさすがに立派で生産には何ら支障なく、若年者の場合（育て上げて間にあるようになると、パット出られ踏んだり蹴ったりのみじめさがのこる）と違い苦勞なされた年輪が誠に頼もしいその上近年平均寿命が延びて60はおろか70でも十分勤勞に耐える人が多くなった。いわゆる肩たたきの対照になる社会情勢になってきていることがむしろラッキーだったと言える。

其の2.

精密保持工具は工作機械に関連した金属を主に加工する工具で自社製品もなんら変らない。ただ機構のしくみによさがあるただそれだけで、電気、物理、化学、的要素は何もない、想像もしなかった月面に米、ソ、はずでに降りている。このすばらしい進歩に比べなんとお粗末な存在かとはがいく思った。せめて金属に何かを組み合わせた新製品の開発完成に意欲を燃やしつづけたい。これが最大の願いである。また実現にはそれなりの協力者が必要なことも承知している。ふと気付いたある会合での化学会社の社長談であった。それは社長みづから研究員毎にテーマをあたえ一年なり二年と研究させるよう進捗の度合いを社長が判談し中止続行を指示す。中止の場合は別のテーマで研究させるとのことだった。ある日某研究員の進行を見たところ研究テーマとかけはなれたものが出来ているのに驚いた。研究に研究を重ねても不成功だったものが出来ていたからである。この研究員も採用時はかなりの風変わりであったことも話された。化学と金属加工ではあきらかに異なる

が、不況の世情、時もよく大学卒の採用を昨年より実施した。ゆくゆくは学識かねそえた良き協力者であるよう願っているが、欲深い考えだろうか。たとえ夢語りに終るとも、ささやかながら希望が抱けるそれだけで満足なのです。

設備について

一般企業に比べて研削盤の比率が高いのが一寸変っているかもしれない。現在は特に加工物の仕上がり精度を要求されるからで必然と工具精度を高めねばならないほか剛性にも富むことからである。種々工作機械もかなり進歩はしているがめまぐるしく発展しているのが、NC、ATC、機である。ことさら説明しませぬが、作成テープの指令通りに働いてくれる忠実かつ重宝な機械であり、誰しもスバラシイと認めていても高価であるが為に手が出しにくいようである。7、8、年昔は、書いている本人自身もその口だった。幸か不幸か別として、ツーリングを製造業としている関係上知る必要と将来性をも熟慮の上一号機を導入したのであるが、清水の舞台からの心境そのものであった。今ではそれが足がかりとなってスローテンプレ乍ら台数も除々にふえ、生産品の均一化と増産かつコスト低減を得ることが出来た。ツーリングに関する当時の勉強が今日に至ったと云える。6年間価格据え置き一部製品は値下げしたものもあるようにお得意様に対して良いものをより安く提供できるよう今後も、社にあった合理化と省力化につとめ時代の流れにおくれを取らぬよう努力したい。

外部機関の活用で新しい展開

今までは自社なりに色々努力してここまで来

たが、今後は学界や研究機関に目を向けその世界の貴重な意見を聴くことにより少しオーバーであるが、産学協同の方向に進みたい。現にマシニング用あるいは造船用に、ある新製品を開発完成53年11月の第9回日本国際工作機械見本市に出品展示、見学者よりの質問に関係者一同は声を溜らす仕末であった。現況市場に如何な策で売り出すかを思考中なり、また産学協同の仲介機関であり、かつ中小企業の技術振興機関として重要な働きをしている。(財)大阪科学技術センターのメンバーとなり、ここで大いに視野を広げるとともに、同センター事業への参加を通じて明日の製品開発の芽を意欲的に探索しようと思下精力的な活動を展開中である。

今回加入許可を得て、企業紹介出来ますことを有難く光栄に存すると同時に厚く御礼を申し上げます。自分は最近になってふとしたご縁で色々な方とおつき合い出来るようになりました、この出会いはつくづく運であると思う。これを大切にしていつまでも可愛いがられるよう常々思っている。また御恩に対して萬分の壹でも、御返ししの出来る人でありたいと念じている。事業は中小企業と云えど存続することに意義があり、その重責を全うすることである。後継者として、次の世代を担う人材の養成にも心がけねばならぬ。中小企業では、血縁を後継ぎに、と考える会社が多いようだが、それにこだわるべきではなく、人物、器量で勘案していかねばならぬ、血縁が跡をつけば、こんな嬉しいことはないが、その器でなければ、これは企業をつぶすことになる。血縁など二の次三の次で、ふさわしい後継者作りに専念していくものである。